

事務事業評価

平成 30 年度

担当課 しまばら観光おもてなし課

基本事項		事務事業名		整理番号				
		湧水城下町おもてなし事業		1509				
根拠法令等				実施を義務付ける規定 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし				
関連する市勢振興計画の基本計画		章 第6章 地域の個性と魅力を磨いて交流を促進する		予算目 7 款 3 項 1 目 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 新規				
		節 第2節 交流活動推進		事業区分 助成・育成				
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	島原ならではの観光コンテンツが不足しており、滞在時間も短く、市内観光消費額が低い。			計画期間	始期 平成 26 年度から 終期 平成 年度まで		
	事業の対象 (誰に・何に対して) 目的 (どのような状態にしたいのか)	島原市内を訪れる観光客の満足度向上と市内滞在時間の延長を図り、市内観光消費額の向上に繋げたい。						
	目的達成のための 具体的手段・方法	島原駅に観光案内所を配置して観光客への案内業務を行うとともに、島原の持つ湧水城下町イメージを活用した各種有料体験プログラムの開発及びインストラクションを行う。						
	成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名 称 等 (内 容)		単 位	28 年度	29 年度	30 年度	
		①かんざらし体験参加者	目 標	人	1,000	3,000	3,500	
実 績			人	1,586	3,398			
達 成 率			%	158.6	113.3	0.0		
②観光案内所等での観光客対応数		目 標	人	4,000	30,000	35,000		
		実 績	人	3,891	32,382			
	達 成 率	%	97.3	107.9	0.0			
活動指標 (目的達成のために 行った活動実績)	①島原観光ボランティアガイドの会の受付等の支援	目 標	件	-	150	200		
		実 績	件	-	122			
	②参加型イベントの企画・運営	目 標	回	2	2	2		
		実 績	回	2	2			
事業費等の推移	年度		26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予 算	計 画
	① 直接事業費(千円)		10,919	12,816	12,813	13,014	13,000	13,000
	財源内訳	国 県 支 出 金	4,367	7,822	12,364	6,507	6,500	6,500
		地 方 債	0	0	0	0	0	0
		そ の 他	0	0	0	0	0	0
		一 般 財 源	6,552	4,994	449	6,507	6,500	6,500
	② 従事職員給与費 b1×b2		146	149	150	151	153	0
	従事職員数(人) b1		0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
	職員平均人件費 b2		7,317	7,438	7,484	7,546	7,663	
事業費合計 ① + ②		11,065	12,965	12,963	13,165	13,153	13,000	

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている これまで実施してきた事業内容を検証し、島原の魅力を発信する素材として必要性に応じて継続して実施している。	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 現在、(株)島原観光ビューローへの補助事業として実施しているが、将来的には事業収入による運営で事業の引き継ぎも可能と想定される。	-
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 当市への観光誘客並びに滞在時間の延長を目的として実施しており、体験型観光の素材として定着している。	A
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか (成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成)	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 調理体験については、懇切丁寧な対応により、利用者の感動・喜びに繋がっている。	A
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある めぐりんバスを導入して市内周遊客の増加を図るとともに、調理体験の利用者増を目指し、周知等を含め改善を図っている。	B
効率性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか (活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成)	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 めぐりんバスを導入して市内周遊客の増加を図るとともに、調理体験についても周知等を図ることで利用者増を見込んでいる。	A
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 費用対効果を検証するとともに、(株)島原観光ビューローと連携して事業に取り組んでいる。	B
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある 大手門番の案内業務は、観光ボランティアガイドとの協働により実施。事業実施を通じ、改善出来ることないか常に検証を行っていく。	B
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 観光客の増加・滞在時間の延長が地域経済の活性化につながるため、より多くの観光客の来訪を誘引することに引き続き努める。体験料の設定については、状況を見ながら判断していく。	A
	⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか	A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	-
判定評点平均（3点満点） A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			2.63

◎ 総合自己評価（所管部署）

評価結果	<input checked="" type="radio"/> A 継続実施（特段の見直しは行わない） <input type="radio"/> B 改善・見直しを行う <input type="radio"/> B1 事業規模の拡充 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し <input type="radio"/> B4 その他の見直し <input type="radio"/> C 休止（隔年実施などへの変更） <input type="radio"/> D 廃止（終期の設定等を含む）	判断理由	地方創生推進交付金を活用した事業であり、観光案内所への案内人の配置により、観光客の求める情報の提供や心に響くおもてなしにより、観光客の満足度を高め、観光の充実感を高めている。 めぐりんバス導入による市内周遊客の増加を図っており、各施設への来客の増加が見込まれるため、観光客の誘客及び滞在時間の延長に向け案内に努めていく。
	今後の課題及び改善策、見直しの状況		（実施上の課題） 事業内容の改善などを常に行っていく。 観光客の滞在時間延長の手段として、新たな周遊ルートの作成などに努めていく。
<small>・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載してください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載してください。</small>			

【2次評価】

総合判定	A 継続実施（特段の見直しは行わない）
備考	体験人数も一定数有り、観光客の市内周遊に寄与していると思われる。事業5年目であり、例えば、魅力あるコンテンツを増やしていくために、体験やイベントなどの企画に重点を置く内容にするなど、さらなる工夫を期待する。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input checked="" type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減 △ 4,000 (千円)
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	